

福岡市NP0ボランティア交流センター評価委員会議事録（要旨）

- 1 日 時 令和6年8月26日（月）14:00～17:00
- 2 場 所 福岡市NP0・ボランティア交流センター セミナールーム
- 3 出席者 （出席委員3名）
蓮見委員、千葉委員、岩永委員
- 4 傍聴人 0人
- 5 議事（要旨）

（1）開会

（2）会議の公開・非公開について

評価委員会設置要綱に基づき、「評価基準に関すること」及び「指定管理者からの意見聴取」は公開、「評価の実施」については非公開とする。

（3）評価基準について

【委 員】 評価シートに対する意見なし。

（4）指定管理者からの意見聴取

【委 員】 市民公益活動に関する研修や講座の中で、ボランティア講座、ボランティアフォーラムの参加者が減っている。他の講座は増えている。参加者、市民の方の関心や反応はどのような感じか。どのように変化を捉えているか。

【指定管理者】 ボランティアフォーラムで行っていたあすみんステージの回数を少なくした。来場者が多い取り組みだったので利用者の減少に繋がっている。フォーラム自体のニーズが減っているわけではないと考えている。ボランティア講座についてはボランティアという言葉が新しい言葉ではなく定着してきていると思う。ボランティアについては知っているから今更聞かなくても、ということなのか、私はボランティアをしたことがあると思っている方が多くなっているのかなと思う。講座に来られた方に来られた理由を尋ねると、ボランティアの意味をもう一度確認したかったから、という方が結構いる。講座を企画した初めの想定としては、ボランティアを始めるにあたって用意していた講座だが、もう一段上げたいときに受ける方が増えていると思う。2か月に1度の実施なのでいつでも行けるからいいかということかもしれない。ボランティア講座をして欲しいと他機関から依頼されることが増えている。市外や区役所の方に出て行き行う講座は増えているので、あすみんで行っている講座の参加者の実数は減っているが、ニーズが少なくなったという訳ではない。

【 委 員 】 数年前に水害があった時はボランティア講座が一気に増えたという報告を受けた記憶がある。定着し身近になっているのか。

【指定管理者】小中学校ではボランティア部もできている学校もあるそうで、段階が変わってきた感じはしている。

【 委 員 】 評価の項目が参加者数の達成率で評価をしなければならないものだから、達成率が低いと点数をどうしようかと悩んでしまう。目標値の決め方が課題だった、あるいは開催回数が過剰になってきていると捉えたほうがよいのか。

【指定管理者】自己評価を考えるワークショップの中でも目標値の設定や評価軸をどのように設定するかが時代と合っていないかもしれないというご意見を先生からいただいたき、私たちがどう目標設定をしたらいいかというところが悩ましいところである。意識変容や行動変容をどう数値化するかというのが、模索状態ではある。講座を受けた後で「この後、何かしてみたくありませんか」という意識変容のアンケートは取っている。ただ、その後、行動したかどうかまでは取れていないので、そこはまだ悩ましいと思っている。来てくれた方がやる気になるのであれば、ボランティア講座をやっている価値があると思うので、もう少し数値化できるようにしていきたい。

ボランティア講座というものは、インフラのようなもので、聞きたい時に常に聞けるという場を準備するのが公共サービスとしては必要なのではないかなと思う。参加者が来るかどうかというのはその時次第というようなところもあると思う。回数が多すぎるとは思わないが、参加者数を毎回多くするというのは、難しいところではある。

【 委 員 】 確かにインフラ的なもので、聞きたい時、思い立った時に、タイミングを逃さず行けるというのはありがたい。

【指定管理者】2ヶ月に1回、「NPO 入門講座」と「ボランティア講座」を交互に行っている。その2つはインフラとしてやっていきたい。オンラインで県外から聞きに來ている方も増えている。

【 委 員 】 情報発信のところで、メルマガをHTML化して開封率が上がったとある。メルマガの登録者数が昨年度と比較して400人増えている。数字が伸びた理由、メルマガがどのくらい前年度と変わったのか。

【指定管理者】29ページのグラフは講座を受けるきっかけとなったツールのパーセンテージになる。このツールをきっかけにして講座に参加するようになったというものを複数回答で選んでいただいたものになる。あすみんホームページが約90%、メルマガが約35%である。メルマガを見てあすみんの講座に参加したという数字は取れていないが、メルマガに情報を載せてほしいという問い合わせは増えてきた。メルマガを見ていただいて、ここに載せたらみんなに繋がる、広がるという意識は持っていていただいているのかなと思う。

- 【 委 員 】 問い合わせをいただく団体・年代に偏りがあるか。
- 【指定管理者】 30代40代が多い。あすみんの利用者層はもう少し高めだが、情報発信を依頼される方というのは、若い世代の方が多い。
- 【 委 員 】 講座に繋がるきっかけになった情報ツールで、意外とチラシが高い。この方々は逆に年代が高い方と思ってよいのか。
- 【指定管理者】 そうである。窓口で配っているのも効果があるかもしれない。以前のメルマガはやたらと文章が長いことでお叱りをうけていた。今はクリックしたらその情報に行くように変えたので、とても便利になったねと褒めていただく。元々携帯電話が古い方は見られないというのもあるので、新しくしていくのも難しい部分はあると思う。
- 【 委 員 】 あすみんノートを電子化されたが、反応はどうか。
- 【指定管理者】 現場にあすみんノートを置いていたのが無くなったので、どこに行ったの？という声はある。取材に行った団体からは発信しやすくなったという声は聴いている。利用者からの声は掴めていない。紙で配布していたときは何千人に配りましたという数字の取り方をしていたが、今はどれだけ読まれたかに変わった。紙の時は本当に読まれているのかが分からなかったが、電子化して何件読まれたか数字が出るようになった。切実だったりもするが、だからこそ対策して、記事としては面白いものになっていくのかなと思う。
- 【 委 員 】 どの記事がよく読まれているのかまで分かるか。
- 【指定管理者】 記事ごとに投稿するので分かる。
- 【 委 員 】 報告書の3ページに、新聞などのマスメディアへの掲載件数が、前年度の49件から141件に大幅増になっている。この内訳というのは、この33ページの表ということでよいのか。
- 【指定管理者】 そうである。
- 【 委 員 】 50件から3倍になっている、多くの人の目に触れるようになったということでしょうか。
- 【指定管理者】 そうである。昔は市政だよりしかなかったが、今は簡単にデジタルコンテンツに載せられるようになったため、違う方の目にも止まるようになったと思う。今は事前の告知を出しているが、当日メディアの方に取材に来ていただいて、報告まで載せていただけるように繋げていきたいと思っているが、ハードルが高い。そこをこれからは広げていきたい。
- 【 委 員 】 広報は事前告知的に載せてくれるケースが多いのか。
- 【指定管理者】 そうである。
- 【 委 員 】 通常その方が難しいので、むしろそれができていることの方が素晴らしいと思う。
- 【 委 員 】 登録更新について非常に効果が出ている。抹消団体が減って、新規団体が増え、

全体として登録団体が増えている。

【指定管理者】新規団体は変わっていないが、抹消団体が減ったというのが成果に繋がった。

【委員】増えた団体の傾向はあるか。どのような活動を行っている方が多いなど。

【指定管理者】個人的な見解にはなるが、子育て支援をされている方、女性の方が増えているように感じる。

【委員】利用者アンケートの年代は 60～70 代が半分以上だったが、今後 30～40 代が増える可能性もあるか。

【指定管理者】若いお母さん方が増えていると感じるので、年齢層も変わるかもしれない。専門相談では団体を立ち上げたいという相談が多く来ている。高齢の方よりお母さんとか若い学生たちが増えてきている傾向があると思う。もう 1 つは、高齢の代表者の方がリタイアされるので若い世代に切り替えようといった相談も増えてきている。これまで団体がその代表者で終わってしまうということが多かった時期があるが、これからは若い人たちが切り替わって団体を残していくような形になると思う。

【委員】活動自体は存続して誰がやるかが入れ替わっているということか。

【指定管理者】そうである。昨年、団体の規模が縮小している気がするという話をしたが、若返るというところになってきてるのかなと思う。コロナ明けすぐの相談で多かったのは、引きこもり関係の団体さんが多かった。団体を立ち上げたい、こういう取り組みをしたい、学校を作りたいという相談が多かった。

【委員】自己評価シートの⑩「特に成果をあげた事項」について、学生ボランティアミーティングの実行委員会が任意団体の「かけはし」という新しい団体を作ったということだが、どのような活動をしているのか。

【指定管理者】4つの学校から集まった学生。ボランティアミーティングが終わった時に、団体にしようかという話を学生の間でして、自分たちが架け橋になって、他の学生を市民活動に繋げていくようなことをしようということで立ち上げた。その後、活発には続いていないようだが、清掃活動とかに参加している。実行委員会の募集は各大学の学生課に募集を出してもらっただけだったが集まってくれた。

【委員】手間はかかるかもしれないが、毎年やってもらいたい取り組み。

【指定管理者】今年の実行委員会は6名の学生のうち、この「かけはし」の中から1名が参加している。

【委員】福岡市も入って、各大学連携でこういったものに参加して、例えば1年間ちゃんと活動した学生には単位認定するような仕組みがあると非常に良いと思った。ただ、どこの都市もこういうことをやろうとしてあまり上手くいっていない。単位を付与するところのハードルが高いので、どこかの大学の学部がそういう責任を負わなければならないので、単位を付与するとい

う仕組みは結構難しい。本当はこういうものはすごく意義が高いはず。

【委員】教員次第で、引き受ける教員がいるかどうかだと思う。

【委員】SDG s 勉強会を実施している。いわゆる昔から言うボランティア的なものではなく、ソーシャルビジネス、企業などお互いのセクターが歩み寄って、もっといろいろな企業を巻き込めたらいいのかなと思う。SDG s 勉強会のような形で企業と登録団体をマッチングできれば、団体の資金不足といった解決策をコーディネートできたりするのではないかな。

【指定管理者】登壇者を誰に声掛けするかで、思い切ってなんの伝手も無かったが朝日新聞に連絡し、東京から来ていただいた。その方が企業の伝手を探していただいて、企画の筋を描いてくださった。台本まで作ってくださった。

【委員】その辺りがうまく絡んでいくと、資金不足で仕組みができていないNPOの底上げができるのではないかな。ハブになっていただきたい。

【指定管理者】そこまで踏み込めておらず、NPOの支援でいっぱいいいところがあるが、企業の資金力や企業がやりたい社会貢献などとNPOが連携していくとうまくいくと思うので考えていきたい。

【委員】企業のCSRとNPOがうまく合えば面白い。こういう企業がこういうのを求めているといった情報提供や、助成金カレンダーが分かりやすくてよいと思うが、企業とNPOとのマッチングをうまく合わせてできるとよいのではないかな。

【指定管理者】どこの企業に出ていただくかについて、SDG s 勉強会に登壇された学識の方にご相談したら、いろいろな取り組みをしている企業をご存じだったので、そういう知見を持った方とか、事例を知っている方にアクセスしていくと、企業のネットワークが増えるなど実感した。動くことで実現に繋がっていきそうだなという手応えはあった。

【委員】SDG s 勉強会の参加者が43名となっているが、これは企業から派遣で来られた方なのか、市民の方で興味があるから参加した方なのか。

【指定管理者】企業の方が15名ほどいた。登壇された企業の方もいたし、他の企業の方もいた。10名ほど行政の方もいた。企業としては行政と繋がるというメリットもあるのではないかなと思う。

【委員】残りの方は関心のある方、登録団体の方がこられたのか。

【指定管理者】そうである。

【委員】職員の件について。しっかり雇用できたと書かれているが、この人材不足の世の中で雇用を充実させられたのは何が良かったのか。

【指定管理者】新しく採用した職員が4名いるが、うち2名が学生、NPO活動に取り組んでいる方が1名、定年を迎えて第二の人生を歩む中で社会貢献をしたい方が1名。あすみんなで働くとか社会貢献できるのではないかなとか、支援をしたいという方々

が集まってきた。こちらが良い人を選ぶというよりも向こうから意識の高い方が集まってきたという印象がある。こちらから何かやったわけではない。

【 委 員 】 NPO・ボランティアをしている方々の中で、フルタイムで働いてる方は難しいと思うが、そうでない方々もたくさんいるのではないかな。そこに求人情報が届くと、非常に相性がいいなと思ったが。

【指定管理者】 そういったところを考えていたが意外とヒットしなかった。週に何日かの活動以外であすみに、という方はあまりいらっしやらなかった。

【 委 員 】 となると今回はどのようなルートで採用したのか。

【指定管理者】 普通に求人情報を出した。我々が共同事業体で運営しているため、2社で求人を出せたのが良かったかもしれない。

【 委 員 】 住宅都市局との空き家の件について聞きたい。

【指定管理者】 住宅都市局が空き家の活用を進めていく事業をしていて、その説明会をあすみんですということ、何か連携ができないかと思い、説明会の中であすみんの紹介をするという形で連携した。空き家を持っている方の中には、お金のためというより、どうやったら社会に活かせるのかと思っている方も多くいる。別件で、空き家や空いているスペースがあるので何か活用してもらえないかという相談があった。そこに2団体が入ってシェアしており、一階の居間はイベントスペースとしていろんな方に使ってもらう家が今できつつある。

【 委 員 】 とても可能性を感じている。福岡都市圏だとまだ土地の値段も上がっており、経済界に絡め取られる分野。その上で、市民のため社会のために、空き家を提供できることはかなり難易度が高い。その中で既に実例があるというのは、とても市民のためになるので、すごく良い活動だと思う。非常に可能性を感じた。

【指定管理者】 大家さんとの話の中で、普通に貸すのは物足りない、良いことに使いたいということだったので、団体に貸すというのはどうでしょうかということになった。

【 委 員 】 そのような大家さんを引っ張り出す非常に良い機会。素晴らしい取り組みだと思う。市民が活動する拠点の場が無いので。

【指定管理者】 あすみんにはいろいろな問い合わせが来るが、相談者にお聞きすると、ボランティアで検索するとあすみんが出てくる。そこから連絡いただいて、さきほどの空き家の件もそうだが、うまく活用できないかという相談がある。今は検索する時代になってきたので、NPOボランティアセンターという名前をまっすぐ出しているのがチャンスに繋がっていると感じる。相談力をもっと上げていければ、そういう提案型の相談の乗り方ももっとできていくと思う。

【 委 員 】 参考情報だが、福大にいた先生が、大学周辺に空き家がどのくらいあるのかを実地調査したところ想像以上にあった。そういった空き家が社会的に使われ

るだけでかなりインパクトがある。

【 委 員 】 空き家の事例はその後どんなふうになったか後追いができないか。あすみんノートに載せると良いのではないか。

【指定管理者】 近々載せられるようにしたい。

（５）評価の実施

非公開

（６）閉会

評価委員会での意見をふまえ、市が最終評価を決定する。評価結果については、指定管理者へ通知し、市ホームページで公表することとする。